

鑑賞音楽の年間

カリキュラムについて

福岡・栄幼稚園 笠 亮 子

鑑賞音楽の保育生活における効果のうち、幼児の活動に与える影響と、情緒の安定、陶冶に及ぼした影響につき考察を加える。

環境は農村背景の物資の集散地。資料は、鑑賞用レコード約十枚、オルガン。

園児、四(名(内十一名は二年保育児))で家庭は中流程度などのもとに、昭和三十三年四月～三十四年三月まで与えた結果、成果がみられたもの。

1、鑑賞音楽を、幼児に自由体形で与えた場合

生活訓練と鑑賞音楽を結びつけて、両者を関係させると、幼児の動きや、生活区分がはっきりしたこと。

2、個別的小グループ的に鑑賞した場合

(4)二年保育の女児、入園時は流行歌・はやりことば、動作(例・ロカビリー)のまねが著しい子どもが鑑賞音楽への興味から卒園時頃には余りまねなどがみられなくなったこと。(5)一年保育児の男児(精神・身体共に他の子どもより発達が遅れている)が始めは、レコードをみたりかけたりする事の興味から音へ移り、長い時間をレコードを聞く事で楽しみ、批判もするようになったこと。

全般的なカリキュラム操作について、

(1) 鑑賞用「小鳥屋にて」「時計屋の店」は、実際の店へ観察に行った後に与えた場合、成果があった。(2) 鑑賞用「乙女の祈り」を

主として、統一調整の音楽として与えた場合(子どもが騒いでいても、この曲を与えると静かになる)成功したこと。

また、期待したが成果が上がらなかったものも多く、これらのほとんどは、環境・資料・保育者の演奏などの準備の不十分さからきていると見られる。

全体として、個別的、小グループ的に鑑賞することはスムーズにいった場合が多かったが、一斉に聞く態度には、満足が得られなかった。この事については、きかせる技術の問題か、また本質的な問題か、今後の研究にまたねばならないと思っている点である。

小学校低学年の教育形態について

— 幼児教育との関連を中心に —

青山学院大学 佐藤 良 吉

研究報告のややくわしい要旨はプリントを参照されたい。

Ⅰ 幼児期をうけてはじまる小学校低学年はいろいろな点で幼児期とふかい関連をもっているが性格教育の観点からはとくにそのようにいうことができること。

Ⅱ 幼・児童期における性格形成過程での問題点を次の七つに類別して考えてみたこと。問題a群 社会的適応性に関する問題点、問題b群 神経質、虚勢傾向に関する問題点、問題c群 自己中心的傾向に関する問題点、問題d群 自己顕示的傾向に関する問題点、問題e群 退行的傾向に関する問題点、問題f群 興奮的傾向に関する問題点、問題g群 拒否的傾向に関する問題点。

Ⅲ これらの問題傾向に対する解決方法として自己遊びおよび集団遊びによる指導方法が極めて効果おおいものであること。

(IV) この方法は Psychotherapy といわれる一般的なものの実施方法よりいくつかの利点をもっているものであること。

(V) この指導法の実施期間として最も適切で且つ効果ある期間は入学当初から六か月ないし九か月の期間であること。

(VI) このプログラムは小学校の、ことに入学当初から六か月ないし九か月にわたつての教育形態としてカリキュラムのうちに正常な位置を占めておこなわれるべきものであること。

父親の幼児養育

関与度に関する階層的研究

愛育研究所 高橋種昭

目的 今回の調査は現在のわが国の社会的諸階層において、父親たちが幼児の養育に、どのような型で、どの程度に関与しているかという事実の機能的な面から取り上げ、それらのもと社会的階層との間の関係を明らかにしようとするものである。

方法 調査の対象には都内の保育園、幼稚園に通園する三才就学前までの児童の父親を対象にした。人数は保育園関係ケース一七二名幼稚園関係ケース一二名、計二九二名である。調査の方法としては、父親の幼児の教育において果していると考えられる機能を、養育、食事、遊び、教育、衛生、宗教の六つに分類し、各機能ごとに三々四項目の質問項目を設け、四段階に評定するような質問紙を家庭に配布し、両親に記入させた。

結果 調査の結果、次のような傾向がみられた。「食事」については給料生活者が最も高く直接的、間接的に関与し

ている。「養育」についてもやはり給料生活者が最も高い関与度を示しているが、階層的にはむしろ低いものの方が高い傾向がみられる。「遊び」の場合には學歷、階層ともに高いものが関与する率が高く、単純労働に従事する父親は低い。「教育」においては専門的職業に従事する者や給料生活者に高く、學歷の低い者は低い。「衛生」の場合は自営商工業者のような階層に関与度の低い者がみられ、幼児の病氣や怪我に全く関与しないものが多い。「宗教」で目立つ事は、これまでの諸機能において常に低い関与度を示していた筋肉労働者の階層のものが逆に高く、學歷においても學歷が低くなればなるほど関与度は高くなる事実である。

母と子の関係（精神身体医学の立場より）

長野県保育専門学院 竹村計美

保育に際しては、環境条件が重大な影響を及ぼす。とくに母と子の関係は密接なものである。この場合、母と子の関係を精神身体医学の立場から、病氣を通じて、血流中の好酸球数をあしがかりとして調べてみた。

好酸球は白血球の一成分であり、副腎皮質ホルモンの一示標として、その多少、変動の様相より、好酸球数を調べることにより、生体か制機に反応する態度を知ることが出来る。

Stress に際して、すなわち、疫病、外傷、寒冷の変化、精神感動によって、生体の副腎皮質ホルモンの分泌が動員され、好酸球数に変化があらわれる。

幼児の急性疫病、（疫痢、自家中毒症）に際して、幼児と共にそ